

和光の緑と湧き水だより

NPO 法人 和光・緑と湧き水の会・会報 Verda100 号記念

身近な自然を知り親しみ守ろう <http://wako-wakimizu.org/>

当会では、特徴のある市内の3箇所のフィールドで保全活動しています。

白子湧水群

大坂ふれあいの森



和光樹林公園

ドングリの森づくり



新倉ふれあいの森

貴重種保護、竹林整備



カタクリ



フデリンドウ



ヤマブキソウ

和光の自然の特徴を市民に発信してきた会報

代表理事 高橋 絹世

会報の創刊号は、2001年8月29日発行です。会の前身「緑と湧水と流れの会」は、1999年度から市民参加の自然環境調査をスタートさせました。市民の窓口として当たり、「市民参加呼びかけ」として広報わこうに「湧き水のまち白子だより」を毎月連載し3年間継続しました。2000年度の報告書作成にも会が加わりました。此れを機に、調査経験を基にした独自の活動として、5月開催の市民祭りに参加し、6月30日の初回の観察会「白子湧き水たんけん観察会」はNHKの首都圏ネットに放映されるなど反響があり、このような活動をお知らせする会報 Verda 創刊号を発行した次第です。

(環境大臣賞受賞)

NPO 法人となった2008年からは、「和光の緑と湧き水 会報 Verda」となり通算100号を迎えることになったわけです。

当会の活動としては、和光市に武蔵野台地末端部の特徴的な湧き水があり、そこにはサワガニなど生き物が棲み、カタクリなどが自生する斜面林と一体となった自然が残り、これを大切に保全していこう、という気風を和光市内に広め、育ててきたような気がします。この活動から、2002年に樹林公園の植生回復をスタートさせ、さらに2006年から新倉ふれあいの森の市民参加の保全活動へと進めてきました。地域との長いつながりから「大坂ふれあいの森」の誕生に関わり、地域のかたがたと力を合わせて、この「大坂ふれあい森」の保全に取り組み、和光の湧き水を保全し市民に広げる活動をしています。2008年度には和光市から環境保全賞、埼玉県から埼玉環境賞、2009年には、環境大臣賞を戴きまさかと驚き、同年、日本自然保護協会

